

経営比較分析表（令和5年度決算）

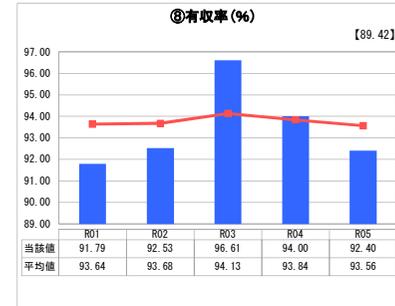
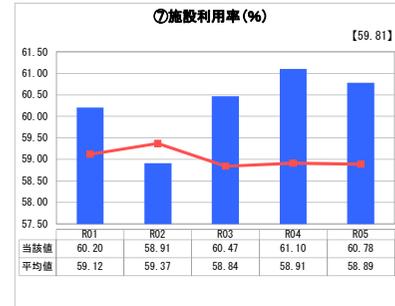
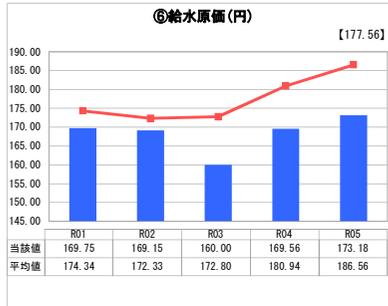
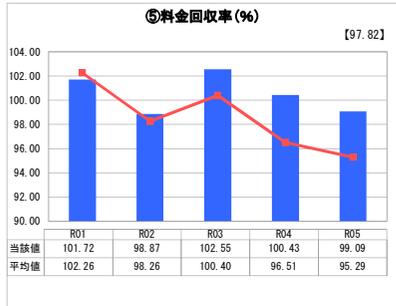
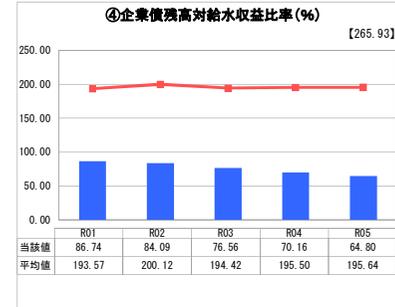
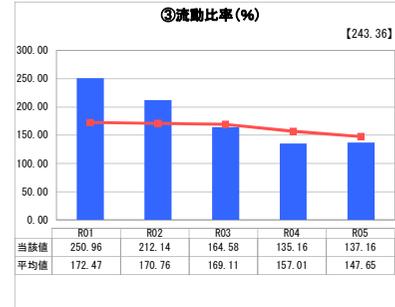
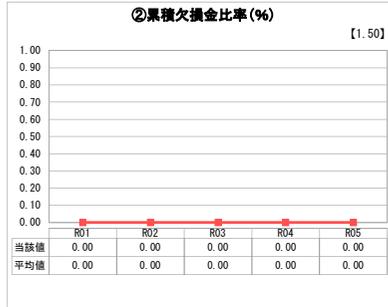
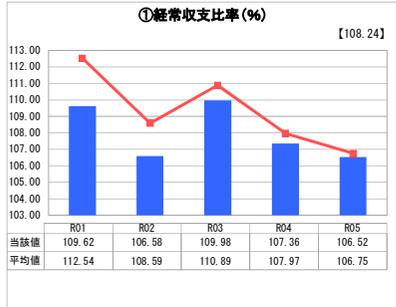
兵庫県 神戸市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	政令市等	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	88.77	99.85	2,563	

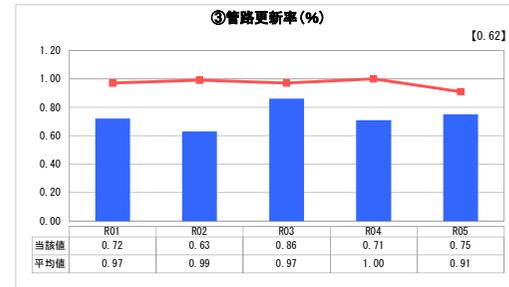
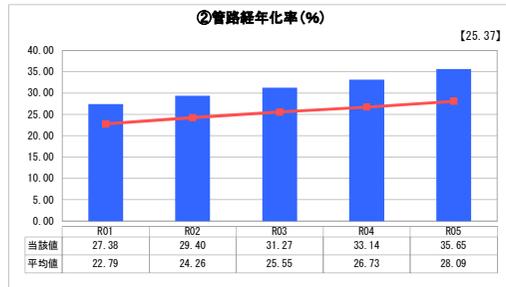
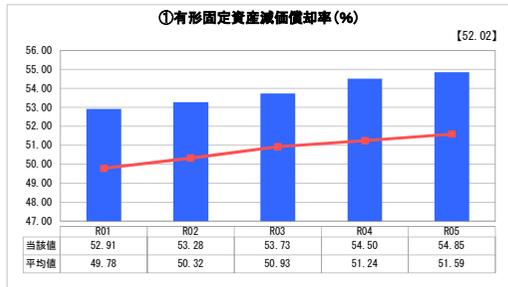
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
1,500,425	14.67	102,278.46
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
1,490,720	287.64	5,182.59

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
[]	令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率
費用は前年度並みだったものの、有収水量の減に伴う給水収益の減少により前年度と比べ低下しているが、健全経営の水準とされる100%は上回っている。
- ② 累積欠損金比率
発生していない
- ③ 流動比率
流動比率は100%を超えているため、現状では短期的な支払能力に問題はないが、減少傾向にあるため改善を図る必要がある。
- ④ 企業債残高対給水収益比率
他の財源を活用し、企業債の借入れを行わなかったことにより値が減少している。
- ⑤ 料金回収率
昨年度と比べ低下し、事業に必要な費用を給水収益で賄えている状況とされる100%を下回っている。令和6年度より水道料金の改定を決定しており、今後数値が改善する見込みである。
- ⑥ 給水原価
給水原価は類似団体との比較では、低い水準となっているが、物価高騰の影響が続いているほか更新投資の増加による減価償却費の増加が見込まれることから、引き続き経営改革に努める必要がある。
- ⑦ 施設利用率
類似団体と比べ高い水準にはあるが、引き続き水需要の減少を踏まえ、施設のダウンサイジングを検討していく。
- ⑧ 有収率
昨年度に比べ低下しており、漏水調査の手法について、新たな漏水調査技術に関する情報を積極的に収集するなど効率的な調査実施に取り組んでいく。

2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率、② 管路経年率
類似団体と比較して高い水準である。これは施設の延命化・長寿命化を図り、投資の抑制を行ってきたためである。
- ③ 管路更新率
工事規模が大きく更新率が上がりにくい大口管路や配水池根本の管路などの更新に対して重点的に投資を行ってきているため、低い水準となっている。高度経済成長期に布設した経年劣化した大量の配水管の更新・耐震化を進めるため、ベースアップを進めていく。

全体総括

人口減少等に伴う給水収益の減少、物価高騰による維持管理費や工事費の増加、施設の老朽化による更新需要の増加等により、経営状況は非常に厳しくなっていく。そのため、料金改定により更新財源を確保し、計画的に施設を更新することで、引き続き、安全・安心な水を安定的に供給できるよう取り組む。

経営比較分析表／団体全体（令和5年度決算）

兵庫県 神戸市

【事業概要】

業務名 法適用	業種名 工業用水道事業	現在配水能力(合計)(m ³ /日) 106,000	類似団体区分 中規模	施設数 1	1日平均配水量(m ³) 44,259
資金不足比率(%) -	自己資本構成比率(%) 70.9	給水先事業所数 73	契約水量(m ³ /日) 90,576	管理者の情報 自治体職員	

グラフ凡例

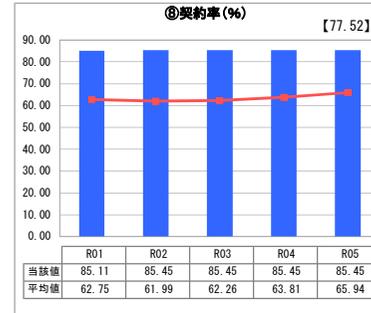
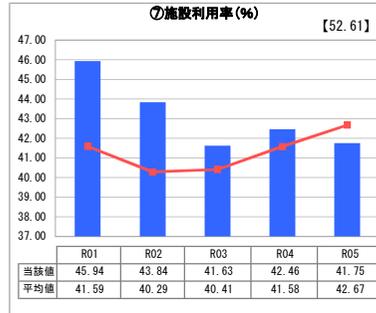
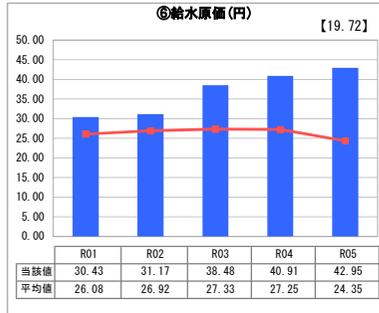
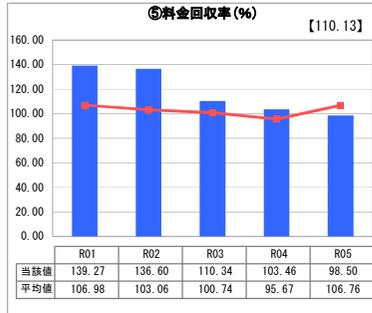
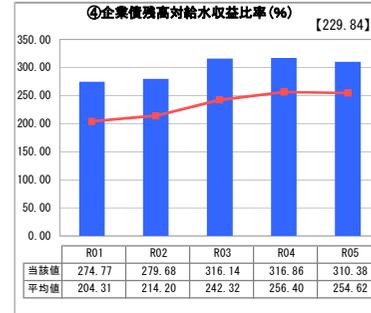
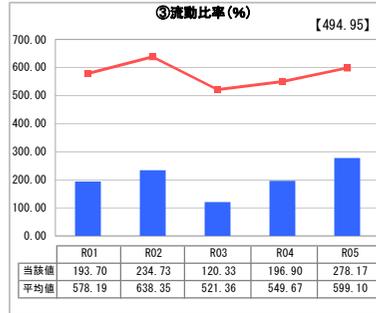
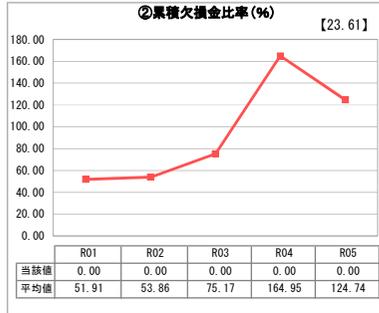
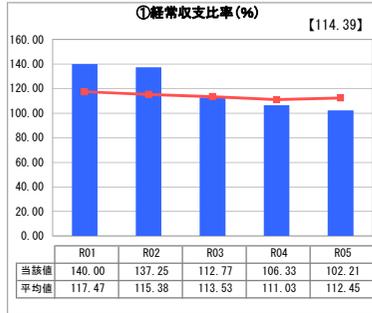
- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和5年度全国平均

分析欄

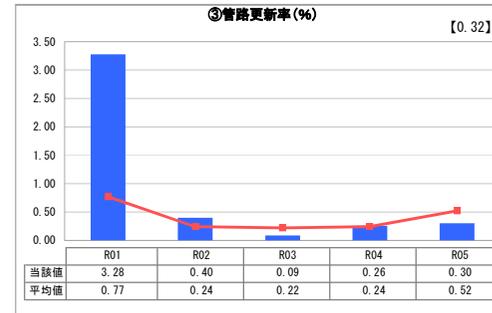
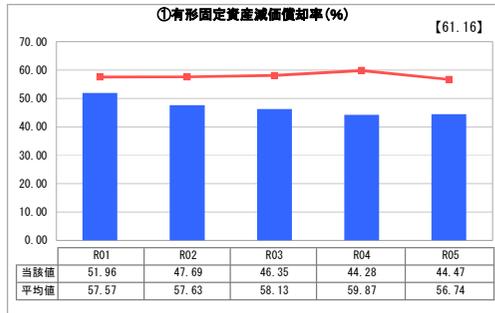
1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率
減価償却費等の費用の増加により低下しているものの、健全経営の水準とされる100%は上回っている。
- ② 累積欠損金比率
発生していない
- ③ 流動比率
100%を超えているため、現状では短期的な支払能力に問題はない
- ④ 企業債務高対給水収益比率
令和元年度以降更新投資の増加に対応するため企業債を発行しており値が上昇傾向にある。
- ⑤ 料金回収率
令和4年度までの第三次改築工事事業により減価償却費が増加したことにより近年、料金回収率が下降傾向にある。今後も物価高騰による費用の増加が見込まれるため、引き続き経営改善に努めていく必要がある。
- ⑥ 給水原価
給水原価は減価償却費等の費用の増加により値が上昇している。
- ⑦ 施設利用率
ここ3年間は横這いである。
- ⑧ 契約率
安定して高水準を維持できている。

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率、②管路経年率
計画的な更新に努めてきたことから法定耐用年数を上回る資産が少ないため、類似団体と比較し低水準である。
- ③ 管路更新率
今後、昭和30~40年代に整備した管路など、大量の工業用水道施設が更新時期を迎えることから、現在の経営状況を維持しつつ、引き続き計画的な施設更新を行っていく。

全体総括

需要者による水利用の合理化や老朽化施設の更新を見据えつつ、引き続き、持続的・効率的な安定給水と経営基盤の強化に努めていく。